

消費者安全調査委員会の動き

(平成25年5月23日)

今回の内容

①会議情報、②ワンポイント・アドバイス

会議情報

最近の、消費者安全調査委員会での議論についてお知らせします。

第8回消費者安全調査委員会（平成25年5月17日）

- 消費者庁に寄せられる数多くの事故情報の中から、調査委員会として、注目すべきものを議論しました。今回、その中から機械式立体駐車場の事故について、今後、調査等を行う方針を決定しました。

機械式立体駐車場については、多くの方に利用されておりますが、死亡事故も発生し、その中には、子どもが犠牲になった事故もあります。こうした現状を踏まえて、調査委員会として、事故の再発を防ぐための原因究明の調査等を行うことを決めました。

なお、具体的にどの事案を調査等の対象とするかは、これから更に検討したうえで、決めていきます。

- 調査委員会には、個別の事故調査の詳細な議論を行う「事故調査部会」が置かれていますが、より効果的に調査を進めるため、この事故調査部会を「工学等事故調査部会」、「食品・化学・医学等事故調査部会」の2つに分けることとしました。今後、この2つの部会で調査等を進めていくこととなります。

- 一般の方からいただいた「申出」に関する事案については、事務局から、類似事例、制度等の関連情報や専門委員の見解などの情報収集の結果が報告され、その内容に基づき調査委員会で検討した結果、8件については調査を行わないこととなりました。残りの案件（34件）については、引き続き、臨時委員、専門委員の知見も活用しながら事務局で丁寧に情報収集を行った上で調査委員会において判断していくこととなります。

- 現在、調査委員会で調査等を行っている5件のうち、事故調査部会で評価を行っているエレベーターでの事故について、「評価書素案」の中間的な検討状況の報告がありました。

☆タイヤのバルブから空気が抜ける原因について

★タイヤのバルブも、使用するうちにタイヤと同様に徐々に劣化します。バルブに傷が入ったり変形したりすると空気漏れやタイヤの破裂を引き起こす危険があります。タイヤ専門店やタイヤメーカーでは、タイヤ交換時にバルブの交換も推奨しています。

(参考) 適正使用に関する安全情報の提供 ユーザー様向け
メンテナンスについて (一般社団法人日本自動車タイヤ協会)
<http://www.iatma.or.jp/tekisei/userfile04.html>

☆タイヤの選定と空気圧管理について

★車両に装着するタイヤは、自動車メーカーが指定する適合サイズ(標準またはオプションサイズ)の中から選定してください。また、全車輪とも同一のサイズ、種類、構造、タイプのタイヤを選定してください。但し、自動車メーカーが軸別にサイズの異なるタイヤを指定した場合はその指定に従ってください。

★タイヤの空気圧が不足するとタイヤの性能が損なわれるばかりでなく、タイヤ損傷の原因にもなりますので、適正な空気圧管理を心掛けてください。
※自動車メーカーが指定するタイヤの適合サイズおよび空気圧については、車両の運転席のドア付近に貼付されているラベル又は取扱説明書に記載されています。

(参考) タイヤの基礎知識：タイヤの選び方
(一般社団法人日本自動車タイヤ協会)
<http://www.iatma.or.jp/tenkencheck/>
タイヤ：7つのチェックポイント、クルマ何でも質問：空気圧
(一般社団法人日本自動車連盟(JAF))
<http://www.jaf.or.jp/rservice/data/tire/point.htm>
<http://www.jaf.or.jp/qa/mechanism/trouble/15.htm>

取扱説明書の記載例

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤがはかるときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
185/65R15 88S	15 × 6J	250 (2.5)	240 (2.4)
195/65R15 91S	15 × 6J		
215/45R17 87W	17 × 7J	230 (2.3)	220 (2.2)
215/40R18 85W	18 × 7 1/2J		



(注) この参考情報は申出事案に関連した一般的な情報であり、申出内容に対する調査結果や回答ではありません。